

ラブライブ！サンシャイン！！×ヴァンガード ～私たちが掴む可能性～

穂乃果ちゃん推し

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

第2回ラブラライブ！ヴァンガードカップで、強敵『A—RISE』を降して優勝を遂げた~~ム~~s。そしてその余波はアキバだけに留まらず、世界中へと広がって行った！

そして……簡素な田舎町に住むこの少女も、伝説の誕生を目の当たりにし、心に決めた……『私も、あの人たちみたいに輝きたい！』と！

今、未知なる輝きを求めて、ここに9人の少女たちが立ち上がる！
今叫べ！スタンドアップ！THE ヴァンガード！

目次

Aqours、始動！

第1話 《始まりの風》	1
第2話 《獅子VS海賊姫》	6
第3話 《転校生が来た！》	13
第4話 《聖なる白き剣士》	22
第5話 《赤髪の少女とほんわか少女》	32
第6話 《墮天使、降臨》	39
第7話 《梨子VS善子》	45

Aqours、始動!

第1話《始まりの風》

【浦の星女学院：2—A教室】

「ふああ〜……」

春の暖かい日差しが教室内に降り注ぐ、4月のこの頃……私、高海千歌はウトウトとしていました。

「もう、食べられないよお……むにやむにや」

「千歌ちゃん、起きて〜」

「……んう? よーちゃん?」

眠りこけていた私を起こしたのは、幼馴染の渡辺 曜ちゃん。アッシュグレーの髪をセミロングにしており、明るくて頼りになる女の子。……曜ちゃんの顔が渋っているのには、少し理由があつて……。

「高海さん……高海さん!」

「うひゃあ! ど、どうしたんですか!?!」

『どうしたんですか』じゃありません! 貴女、また居眠りしてましたね?」

いきなり大声で私を起こしたのは、担任教師の星川 輝子先生。青い髪をショートボブにしている、ラフな格好に身を包んでいる数学の先生。怒ると怖い事で有名だけど、自他共に厳しい事でも有名な先生。……現に私は、今どつぷりと怒られて……。

「高海さん、あ・れ・ほ・ど! 授業中は寝ては行けないと言いましたよね?」

「は、はい……」

「罰則として《課題プリント2枚》を課します！明日の朝イチまでに提出する事！分かりましたか？」

「はい！すみません……」

「絶対やって来るように……さて、続きましては」

私をドヤしつけた後、星川先生は授業へと戻って行きました。……
そしてその日の放課後。

「あーあー……何でこんなのあるんだろ」

「仕方ないよ、千歌ちゃん。誰だつて寝てたら、それは怒られるよ」

「そうだけどさく……あつ、曜ちゃん！久しぶりにヴァンガードしない？」

「あつ、いいね！やろうやろう！」

そう言つて私と曜ちゃんは机をくっ付けて、ファイトできるような盤面を作りました！……絶対に負けないよ！

「始めるよ！千歌ちゃん」

「うん！よろしくね！」

「スタンドアップ！ヴァンガード！」

そう言つて私と曜ちゃんは、場に伏せられていた1枚のカードを表に返しました！舞台は海賊船……不気味だけど、絶対に負けないよ！

「へ踊る海賊姫 アニエス」

曜の手札5 / ダメージ0

—————

踊る海賊姫 アニエス

克蘭：グランプルー アイコン：ブースト

グレード0 / パワー6000 / シールド10000 / ☆1

【自】ライドされた時1枚引く。

—————

「へ紅の小獅子 キルフ〜!!!」

千歌の手札5／ダメージ0

—————

【職員室】「一方、その頃……」《輝子side》

「はあ……高海さんったら」

「お疲れだな、星川」

そう言つて私に声を掛けたのは、私の高校時代の恩師であり、今では頼れる上司である山田先生。私が頭を抱えているのを気づいたのか、手元にはコーヒーが入れられたカップがありました。

「何かあったか?」

「聴いてくださいよ……実は」

しばらくの間、私は山田先生にココ最近あった事を話していました。……キッチンとやっていると良いけど……。

—————

【2—A教室】【TURN1】〔PL:曜〕

「私から行くよ!ドロー、ライド!へ微笑する海賊姫 ウルミナ!ソウルにあるへ踊る海賊姫 アニエス!の効果で1枚ドロー!」

曜の手札5↓6↓5↓6

—————

微笑する海賊姫 ウルミナ

クラン:グランブルー アイコン:ブースト

グレード1／パワー8000／シールド10000／☆1

【自】このユニットが(V)か(R)に登場した時、あなたのデッキの上から2枚をドロップに置く。

—————

「さらに!ウルミナの効果で、山札の上から2枚を破棄!私はこれで

ターンエンド！」

曜の手札6／ダメージ0／ドロップ0↓2

〔TURN2〕〔PL：千歌〕

「私のターン！ドロロー、ライド！へ美技の騎士 ガレス！ソウルにあるへ紅の小獅子 キルフの効果が1枚ドロロー！」

千歌の手札5↓6↓5↓6

—————

美技の騎士 ガレス

パワー8000／シールド10000／☆1

—————

「行くよ！ガレスでヴァンガードに攻撃！」

「ノーガードで対処するよ！」

「ドライブトリガー確認！」

千歌の手札6↓7

《ドライブチェック》

①へ灼熱の獅子 ブロンドエイゼル

「くっ！ダメージチェック！」

曜のダメージ0↓1

《ダメージチェック》

①へ不死竜 スカルドラゴン

「これでターンエンド！」

千歌の手札7／ダメージ0

曜ちゃんには何時も負けてばかりだったから……今度は絶対に勝つ！

—————

【東京：福原高校 ヴァンガード部部室】

「んー……ちよつと物足りないね」

「そうですね、もうちよつと、張合いのある相手が欲しいですわね」

「お前たち……目指す物は分かっているのか？」

「勿論ですよ、伊吹先生。僕たちが目指すのは、『全てのヴァンガードファイターの頂点』……ただ一つですから」

その頃、この部室の中では……2人の怪しい眼光が、まだ見ぬ先を見据えていたのだった。

第2話 《獅子VS海賊姫》

【TURN3】〔PL：曜〕

「私のターン！ドロ、ライドへ嘲笑する海賊姫 エニシア！！」

曜の手札6↓7↓6／ダメージ1／ドロップ2

—————

嘲笑する海賊姫 エニシア

種別：ノーマルユニット

克蘭：グランブルー アイコン：インターセプト

グレード2／パワー10000／シールド5000／☆1

【自】〔V〕／〔R〕：登場時、【コスト】「Cブラスト(1)する」ことで、あなたのデッキの上から3枚をドロップゾーンに置き、君のドロップゾーンから1枚までを〔R〕にコールする。

【自】ライドされた時、君のデッキの上から5枚をドロップゾーンに置く。

—————

「エニシアの効果！1枚をカウンターブラストして……デッキの上から3枚を破棄！その中からへ剣豪の海賊姫 シェルミイを左前にスペリオルコール！」

曜のダメージ1↓0／CBO↓1／ドロップ2↓5↓4

「ドロップゾーンから、新しいユニットが出て来たあ！」

「あつはは！これが私の戦略……《グランブルー》だよ！落ちし秘宝をその手に掴む、海賊団！」

—————

剣豪の海賊姫 シェルミイ

種別：ノーマルユニット

克蘭：グランブルー アイコン：インターセプト

グレード2／パワー9000／シールド5000／☆1

【起】〔R〕『ターン1回』他のユニットがコールされた時、【コスト】「Sブラスト(1)する」ことで、君のデッキの上から3枚をドロップゾーンに置き、このユニットのパワー+5000。

—————

「さらに……おいで！へ微笑する海賊姫 ウルミナ！この瞬間にへ剣豪の海賊姫 シェルミイの効果発動！ヴァンガードのソウル1枚を取り除く事で、私のデツキの上から3枚を破棄して、シェルミイのパワー+5000！」

曜の手札6↓5／ドロップ4↓5↓8

「いきなりパワー増加!?……とんでもないよ、曜ちゃん！」

剣豪の海賊姫 シェルミイ

ATP9000↓14000

「行くよ！エニシアでヴァンガードにアタック！」

「ノーガード！」

「ドライブトリガー確認、ヨソロー！」

曜の手札5↓6

《ドライブチェック》

①へ投擲の海賊姫 ドウーチエ☆

「ゲット！クリティカルトリガー！パワーはシェルミイに、クリティカルはヴァンガードに！」

剣豪の海賊姫 シェルミイ

ATP14000↓24000

嘲笑する海賊姫 エニシア

☆1↓2

「ううっ！ダメージチェック！」

千歌のダメージ0↓2

《ダメージチェック》

- ① へ真実の聴き手 デインドラン
② へ光輪の盾 マルク引

「ゲット・ドロートリガー！パワーはガレスに与えて、私はカードを1枚ドロー！……やつと来たね」

千歌の手札7↓8

美技の騎士 ガレス

DFP8000↓18000

「シエルミィー！ウルミナの支援を受けて……ヴァンガードに攻撃！」

剣豪の海賊姫 シエルミィ

ATP24000+8000↓32000

「その攻撃は危ない……！私を護つて！へエリクサー・ソムリエでガード！」

千歌の手札8↓7

美技の騎士 ガレス

DFP18000+20000↓38000

「仕方ないか……私はこれでターンエンド！」

曜の手札6／ダメージ0／CBI／ドロップ8

【TURN4】[PL:千歌]

「私のターン！ドロー、ライドへ神技の騎士 ボーマン！効果で手札1枚を捨てる事で、中央後にへ美技の騎士 ガレスをスペリオール！」

千歌の手札7↓8↓7↓6

—————

神技の騎士 ボーマン

グレード2／パワー9000／シールド5000／☆1

――

「私の場にボーマンとガレスがあるので……手札にあるへ灼熱の獅子
ブロンドエイゼル」の効果を発動！」

「ええ!？」

「このユニットは、私の場にへ神技の騎士 ボーマン」とへ美技の騎士
ガレスが存在するなら……ソウルのへ紅の小獅子 キルフをド
ロップする事で、手札からスペリオルライドできる!へ灼熱の獅子
ブロンドエイゼル」にスペリオルライド!!!」

千歌の手札6↓5

――

灼熱の獅子 ブロンドエイゼル

種別：ノーマルユニット

クラン：ゴールドパラディン

アイコン：ツインドライブ!! ギフト：アクセル

グレード3／パワー12000／シールド無し／☆1

【起】【手札】：あなたの、(V)か(R)に「神技の騎士 ボーマン」と
「美技の騎士 ガレス」がいるなら、「コスト」【紅の小獅子 キルフ】
を【ソウルブラスト】(1)【】することで、このカードを【スタンド】で
ライドし、相手のヴァンガードがグレード2以下なら、そのターン中、
このユニットのドライブ1。

【自】【(V)】：アタックした時、あなたの手札を1枚(R)にコールし
てよい。

――

「イマジナリーギフト獲得!『アクセル』発動!」

「(千歌ちゃんのデッキの真骨頂!絶対に止めてみせる!)」

コツコツコツコツコツコツコツ!!!

「(や、ヤバい!)」

「(こゝで星川先生に來られると!)」

ガララッ!

「貴女たち!何をしていますのですか!」

「ヒイ!す、すみません!……なんだくダイヤ生徒会長か」

「どうしたんですの?そんなに慌てて」

千歌たちは目の前に立っている、黒髪のストレートヘアをしていて、口許に小さなホクロがある少女……黒澤　ダイヤ生徒会長に説明を始める。……そして、暫くした後。

「ぶつぶ……すわ!」

「ううっ……」キ……!!!

「大方……星川先生に見つからない様に、隙を見てヴァンガードをしていたのですよね?」

ダイヤの言葉は的を得ており、的確に千歌たちの心を抉って行く。それと同時に項垂れてしまう千歌たち。一息ついた後、ダイヤはこう言う。

『ヴァンガードをするな』とは言いませんが……やるべき事を、キチンと終わらせてからするのですよ?分かりましたわね?」

『は、はい……』

「失礼致しましたわ」

そう言つて千歌たちの元から去って行くダイヤ。……そしてその後の教室内では。

「ファイト……続けられそう?」

「わ、私……無理かも」

『無理かも』と発言した千歌の言葉を受け、千歌たちは広がっていたファイトスペースを片付けて、課題プリントへと向かった。……そしてそんな2人を見守る様に、太陽がこれでもかと照り付けていた……。

――
【一方、その頃……】

「ここが内浦……私、上手くやって行けるかな……？」

その言葉を呟きながら、ワインレッドの髪をストレートヘアでバレッタで止めた少女は家へと入って行った。……そして腰に提げられたデッキケースには《ロイヤルパラダイン》のクランマークが刻まれていた。

――
【東京……とあるカードショップ】〔同時刻〕

「ファイナルターナー！黙示録の業火に灼かれ……そして消え失せる！
エターナル・フレイム！」

「うわあああああああ！」

その頃……とあるカードショップでは、1人の少年が1人のファイターを完膚なきまでに叩きのめしていた。

「何もんだよアイツ……」

「おい、アイツら……福原じゃねえか！」

「マジかよ！俺勝てる訳ねえぞ！」

その少年と付いていた少女の制服を見た途端、周りがザワメキだした！……中には熱狂的なファンも居たが。

「素晴らしいですわ……ねえ、颯樹くん？」

「今のままじゃ、足りない！確実に強くなるまで、特訓だ！碧月ちゃん

……覚悟は出来てる？」

「はい！もちろんですわ！」

そう言っつて2人は特訓を始めた。……この2人を止める事のできる相手が現れるのは、今からそう遠くない先の話である。

第3話 《転校生が来た!》

【通学途中のバス内】〔翌日〕

私と千歌ちゃんは何時もの様に、学校へと向かうバスへと乗っていました。そして、千歌ちゃんが話し始めました。

「ねえ、曜ちゃん」

「何?千歌ちゃん」

「私ね、昨日家に帰って考えたんだ」

「考えたって……何を?」

私は千歌ちゃんの言った言葉が気になり、千歌ちゃんが続ける言葉を待ちました。……そして千歌ちゃんはこう言いました。

「私、ヴァンガード部を作る!」

「ヴァンガード部?」

「うん!」

「いいねいいね!私もやるよ!」

「ありがとう、曜ちゃん!」

そう言っただけ千歌ちゃんは、勢い良く私に飛び付いて来ました!……もう、相変わらず千歌ちゃんは可愛いなあ!

――――
【浦の星女学院：2―A教室内】

私たちが学校に着いて教室に入ると、クラスが少しだけ騒がしい状態でした!

「何だろう?」

「ねえ、これって……何なの?」

そう思った千歌ちゃんは、クラスメイトにこの状況を聞きました。

そして驚くべき言葉を聞きました！

「あー！千歌ちゃん、曜ちゃん、聞いてー！このクラスに……転校生が来るんだよー！」

「へ？」

「ええええええええ！」

私と千歌ちゃんは素つ頓狂な声を上げた後、二人揃って叫んでしまいました。……そうしたせいで、星川先生にはキツーーく叱られてしまいました。

「皆さん、おはようございます」

『おはようございます！』

「今日は、皆さんも知っての通り……このクラスに新しい仲間が加わる事になりました。入って来てもらいましょうか……どうぞー！」

星川先生が外にいる生徒に声を掛けました！その娘は、ワインレットの髪をストレートヘアにしている、髪をバレッタで留めた女の子でした！その女の子は、私たちの方を向くと、自己紹介を始めました。

「えっと……東京の音ノ木坂から来ました《桜内 梨子》です。よろしくお願いします」

『よろしくお願いします！』

「では……桜内さんは高海さんの前の席です」

そう言われて桜内さんは、千歌ちゃんの前の席へと着きました。そして、千歌ちゃんは桜内さんに自己紹介を始めました。

「私の前だね！私、高海千歌！これからよろしくね、桜内さん！」

「私は渡辺曜だよ！ヨーソロー！」

「よ、よろしく……」

「あつ、桜内さんって……ヴァンガード、やってる?」

千歌ちゃんがそう聞くと、桜内さんは少しだけ考える素振りを見せましたが、千歌ちゃんの方を向き直してこう言いました。

「まあ、楽しむ程度には……」

「じゃあさ、梨子ちゃん!私とファイトしよ!」

「わ、私と……?」

「ねっ、良いでしょ?」

千歌ちゃんのこの声に落ちたのか、桜内さんは千歌ちゃんのファイトを承諾しました。やった!3人目獲得だね!

【浦の星女学院：屋上】〔昼休み〕

「よろしくね、梨子ちゃん!」

「分かりました」

「スタンドアップ! (THE) ヴァンガード!」

千歌ちゃんと梨子ちゃんは、伏せられていたファーストヴァンガードを表にしました!それにしても『THE』の掛け声に《ロイヤルパラディン》か……最近流行ってるのかな?

「へ紅の小獅子 キルフ!!!」

千歌の手札5 / ダメージ0

「へぐらいむ」にライドします」

梨子の手札5 / ダメージ0

【TURN1】〔PL：千歌〕

「私のターン!ドロ、ライドへ美技の騎士 ガレス!キルフの効果で1枚ドロ!ターンエンド」

千歌の手札5 ↓ 6 ↓ 5 ↓ 6 / ダメージ0

―――
【TURN2】〔PL：梨子〕

「私のターンですね。ドロローしてへナイトスクワイヤ アレンへにライ
ドします」

梨子の手札5↓6↓5

―――

ナイトスクワイヤ アレン

グレード1／パワー8000／シールド10000／☆1

アイコン：ブースト

―――

「へぐらいむ」の効果で1枚引きます。そのままヴァンガードを攻撃し
ます」

梨子の手札5↓6

「ノーガード！」

「行きます。チェック・THE・ドライブトリガー」

梨子の手札6↓7

《ドライブトリガー》

① へアルフレッド・アーリーへ

「うっ！ダメージチェック」

千歌のダメージ0↓1

《ダメージチェック》

【1点目】へ聖弓の奏者 ヴィヴィアンへ

「私はこれでターンエンド」

梨子の手札7／ダメージ0

―――

【TURN3】〔PL：千歌〕

「私のターン！ドロロー、ライドへ神技の騎士 ボーマンへ！効果で手札

1枚をドロップする事でへ美技の騎士 ガレスを左後列にコール！
千歌の手札6↓7↓6↓5

「……あれ？見当たらない」

ガレスをコールして少しした後、千歌ちゃんの動きが止まってしまいました！……あちゃー、固まっちゃったか。

「……仕方ない！ボーマンでヴァンガードにアタック！」

「ノーガード」

「ドライブチェック！」

千歌の手札5↓6

《ドライブトリガー》

①へフレイム・オブ・ビクトリー☆

「ゲット！クリティカルトリガー！効果は全てへ神技の騎士 ボーマンに与えるよ！」

神技の騎士 ボーマン

パワー9000+10000↓19000

☆1↓2

「ああつ……ダメージチェック」

梨子のダメージ0↓2

《ダメージチェック》

【1点目】へまああるがる引

【2点目】へ小さな賢者 マロン

「ゲット、ドロートリガー。パワーはアレンに与えて、私はカードを1枚引きます」

梨子の手札7↓8

「ターンエンド！」

千歌の手札6／ダメージ1

【TURN4】〔PL：梨子〕

「私のターンですね。ドロワーして……行きますよ、高海さん」

梨子の手札8↓9

「ううっ」

「先程の間は何か知りませんが、私は容赦はしませんよ。……颯樹くんからの教えだしね」

「?……梨子ちゃん？」

先程、梨子ちゃんがボソツと喋った事を聞こうとした時、梨子ちゃんが行動を起こしました！

「聖なる剣の名の元に、敵を砕くは白き騎士！立ち上がれ……私の分身！ライドへブラスター・ブレード！！」

梨子の手札9↓8

—————

ブラスター・ブレード

グレード2／パワー10000／シールド5000／☆1

アイコン：インターセプト

—————

「こ、これが……へブラスター・ブレード……」

「き、綺麗……」

「左後列にコールへナイトスクワイヤ アレンを中央後列にスペリオルコール！そうしたら、1枚ドロワーして……アレンのパワー+3000！」

梨子の手札8↓7↓6↓7／ダメージ2↓1／CBO↓1

—————

ういんがる

グレード1／パワー8000／シールド10000／☆1

アイコン：ブースト

ーーーー

ナイトスクワイヤ アレン

パワー8000+3000↓11000

「右前列にコールへ文武の賢者 ジャーロン」……左前列にコールへ沈黙の騎士 ギャラティン」

梨子の手札7↓6↓5

ーーーー

沈黙の騎士 ギャラティン

グレード2／パワー10000／シールド10000／☆1

アイコン：インターセプト

ーーーー

文武の賢者 ジャーロン

グレード2／パワー10000／シールド5000／☆1

アイコン：インターセプト

ーーーー

「行きます……ジャーロンでヴァンガードに攻撃します。スキル発動。私のリアガードが3体以上居るので、パワー+5000」

文武の賢者 ジャーロン

パワー10000+5000↓15000

「へ真実の聞き手 デインドラン」でガード！」

千歌の手札6↓5

神技の騎士 ボーマン

DFP9000+10000↓19000

「行きます……ういんがるの支援を受けて、ブラスター・ブレードでヴァンガードに攻撃！スキル発動！ブラスター・ブレードのパワー+5000！さらに自身の効果で、私のリアガードが4体以上なので、クリティカル+1！」

ブラスター・ブレード

パワー10000+8000+5000↓23000

☆1↓2

「その攻撃を受けたら……危ない！へ光輪の盾 マルクで完全ガード！」

千歌の手札5↓4↓3

【完全ガードコスト】へウェイピング・オウル

「チェック・THE・ドライブトリガー！」

梨子の手札5↓6

《ドライブトリガー》

①へ幸運の運び手 エポナ☆

「ゲット！クリティカルトリガー！効果は全てへ沈黙の騎士 ギャラティンに！」

沈黙の騎士 ギャラティン

パワー10000+10000↓20000

☆1↓2

「う、嘘!？」

「アレンの支援を受けて……ギャラティンでヴァンガードに攻撃！」

「……ノーガード、ダメージチェック」

千歌のダメージ1↓3

《ダメージチェック》

【2点目】へ月影の白兔 ペリノアへ

【3点目】へ光輪の盾 マルクへ引

「ゲット！ドロートリガー！パワーはボーマンに、私はカードを1枚ドロー！」

千歌の手札3↓4

「ターンエンドです」

梨子の手札6／ダメージ1／CB1

第4話 《聖なる白き剣士》

《途中経過》【TURN 4まで】

千歌の手札 4 / ダメージ 3 / CB 0

〔V〕〈神技の騎士 ボーマン〉：ソウル 2

〔中央後列〕：無し

〔右前列〕 / 〔右後列〕：無し

〔左前列〕：無し

〔左後列〕〈美技の騎士 ガレス〉

—————

梨子の手札 6 / ダメージ 1 / CB 1

〔V〕〈ブラスター・ブレード〉：ソウル 2

〔中央後列〕〈ういんがる〉

〔左前列〕〈沈黙の騎士 ギャラティン〉

〔左後列〕〈ナイトスクワイヤ アレン〉

〔右前列〕〈文武の賢者 ジャーロン〉

〔右後列〕：無し

—————

【TURN 5】〔PL：千歌〕

「私のターン……ドロー！」

千歌の手札 4 ↓ 5

千歌の引いたカードが虚空を切る……すると、そのカードは千歌の
想いに応えるかのように、千歌の手札に加わった！

「行くよ……梨子ちゃん！」

「……！」

「荒ぶる獅子よ！己の願いを込めて、私と共に立ち上がれ！ライド〈灼
熱の獅子 ブロンドエイゼル〉!!!」

千歌の手札 5 ↓ 4

—————

灼熱の獅子 ブロンドエイゼル

グレード3 / パワー12000 / シールド無し / ☆1

アイコン：ツインドライブ!! ギフト：アクセル

—————

「これが……高海さんのエースユニット!」

「やったね、千歌ちゃん!」

「イマジナリーギフト『アクセル』発動!」

千歌がそう宣言した瞬間、ギフトマークがブロンドエイゼルに吸い込まれるかのように、新しい力を与えた!それを確信した瞬間、千歌の瞳が輝き出した!

「へ聖弓の奏者 ヴィヴィアン」をアクセルサークルにコール!スキル発動!「カウンターブラスト」(1)、「ソウルブラスト」(1)する事で……デツキの上から3枚を確認するよ!」

千歌の手札4 ↓ 3 / ダメージ3 ↓ 2 / C B O ↓ 1

—————

聖弓の奏者 ヴィヴィアン

グレード2 / パワー9000 / シールド5000 / ☆1

アイコン：インターセプト

—————

聖弓の奏者 ヴィヴィアン

パワー9000 + 10000 ↓ 19000

《《デツキの上3枚のカード》》

① へ戦場の嵐 サグラモール

② へだんてがる 前

③ へ神技の騎士 ボーマン

「私はその中から……へ戦場の嵐 サグラモール」を左前列にコール!その後、残りをデツキボトムに置いて、ヴィヴィアンのパワー+30

00!」

ーーーーー

戦場の嵐 サグラモール

グレード3 / パワー12000 / シールド無し / ☆1

アイコン：ツインドライブ!! ギフト：アクセル

ーーーーー

聖弓の奏者 ヴィヴィアン

パワー19000 + 3000 ↓ 22000

「さらに〈降魔剣士 ハウガン〉を中央後列にコール!……行くよ、梨子ちゃん!」

千歌の手札3 ↓ 2

「(……! な、何? 高海さんから放たれる、この強烈なイメージは!)」
「ハウガンの支援を受けて……ブロンドエイゼルでヴァンガードに攻撃! ブロンドエイゼルの効果で、手札から〈聖弓の奏者 ヴィヴィアン〉を右前列にコール!」

千歌の手札2 ↓ 1

「(と言う事は……また、あの効果がくる!)」
「ヴィヴィアンの効果で、【カウンターブラスト】(1)、【ソウルブラスト】(1) する事で……デッキの上から3枚を確認するよ!」

千歌のダメージ2 ↓ 1 / CB1 ↓ 2

《デッキの上3枚のカード》

- ① 〈真実の聞き手 デインドラン〉
- ② 〈月影の白兔 ペリノア〉
- ③ 〈エリクサー・ソムリエ〉治

「その中から〈真実の聞き手 デインドラン〉を右後列にコール! その後、残りをデッキボトムに置いて、ヴィヴィアンのパワー+3000!」

ーーーーー

真実の聞き手 デインドラン

グレード1／パワー7000／シールド10000／☆1

アイコン：ブースト

ーーーー

「これが最後のソウル！デインドランの効果、発動！【ソウルブラス
ト】（1）する事で……1枚を【カウンターチャージ】して、デインド
ランのパワー+3000！」

千歌のダメージ1↓2／CB2↓1

真実の聞き手 デインドラン

パワー7000+3000↓10000

「（一瞬でこんなに展開……だけど、それは私だって同じ！ここで負け
られない！）〈閃光の盾 イゾルデ〉で完全ガード！」

梨子の手札6↓5↓4

【完全ガードコスト】へまあるがる引

「ツインドライブ！」

千歌の手札2↓4

《ドライブトリガー》

- ① へだんてがる前
- ② へフレイム・オブ・ビクトリー☆

「ゲット！フロントトリガー！前列全てのユニットのパワー+1000
00！続けて……ゲット！クリティカルトリガー！効果は全てアク
セルサークルのヴィヴィアンに！」

聖弓の奏者 ヴィヴィアン（右前列）

パワー9000+10000↓19000

灼熱の獅子 ブロンドエイゼル

パワー12000+8000+10000↓30000

戦場の嵐 サグラモール

パワー12000+10000↓22000

聖弓の奏者 ヴィヴィアン（アクセルサークル）

パワー22000+10000+10000↓42000

☆1↓2

「ちよ……う、嘘……」

「ディンドランの支援を受けて……ヴィヴィアンでヴァンガードにアタック！」

聖弓の奏者 ヴィヴィアン（右前列）

パワー19000+10000↓29000

「ああ……ダメージチェック！」

梨子のダメージ1↓2/CB1

《ダメージチェック》

【3点目】へ小さな賢者 マロン〈

「ガレスの支援を受けて……サグラモールでヴァンガードにアタック！」

戦場の嵐 サグラモール

パワー22000+8000↓30000

「ノーガード！ダメージチェック」

梨子のダメージ2↓3/CB1

《ダメージチェック》

【4点目】へ世界樹の巫女 エレインへ治

「ゲット！・ヒールトリガー！・パワーはブラスター・ブレードに与えて、ダメージを1枚回復します！」

梨子のダメージ3／CB1↓0

ブラスター・ブレード

パワー10000+10000↓20000

「アクセルサークルのヴィヴィアンで、ブラスター・ブレードをアタック！」

「閃光の盾 イゾルデ」で【完全ガード】!!!」

梨子の手札4↓3↓2

「も、もう1枚あったの!?!」

「貴女が粘るなら……私だって!?!」

【完全ガードコスト】へ騎士王 アルフレッドへ

「……タ、ターンエンド」

千歌の手札4／ダメージ2／CB1

【TURN6】「PL：梨子」

「……行きますよ、ファイナルターン！」

『ファ、ファイナルターン!?!』

「(ま、不味い……!・梨子ちゃんは、このターンで全て終わらせるつもりだ!・何か策はあるの、千歌ちゃん!)」

「私のターン!・ドロ、ライド……騎士たちを束ねし、聖なる剣!・その力は正しく《騎士たちの主》!・プリンス・オブ・ロイヤルパラディン!・へアルフレッド・アーリーへ!!!」

梨子の手札2↓3↓2

—————

アルフレッド・アーリー

グレード3／パワー13000／シールド無し／☆1

アイコン：ツインドライブ!! ギフト：フォース

ーーーーー

「イマジナリーギフト『フォース』！効果は左前列のリアガードサークルに！」

沈黙の騎士 ギャラティン

パワー10000+10000↓20000

「さらにへアルフレッド・アーリー」の登場時効果！「カウンターブラスト」(1)する事で……ソウルから左前列に現れて！私の分身！へブラスター・ブレード！その後、そのユニットのパワーを+10000して、1枚ドロウします！」

梨子の手札2↓3／ダメージ3↓2／CB0↓1

へ沈黙の騎士 ギャラティン〔退却〕!!!

ブラスター・ブレード

パワー10000+10000+10000↓30000

「ソウルから現れた!？」

「ブラスター・ブレードのスキル発動！「カウンターブラスト」(1)、

「ソウルブラスト」(1)する事で……アクセルサークルのヴィヴィアンを退却！」

梨子のダメージ2↓1／CB1↓2

へ聖弓の奏者 ヴィヴィアン〔退却〕!!!

「そ、そんな！」

「行きます……ジャéronでヴァンガードに攻撃！スキル発動！私のリアガードが3体以上居るので、パワー+5000！」

文武の賢者 ジャーロン

パワー10000+5000↓15000

「もう1枚のヴィヴィアンでガード！」

灼熱の獅子 ブロンドエイゼル

パワー12000+5000↓17000

「行きますよ……ういんがるの支援を受けて、アルフレッド・アーリーでヴァンガードに攻撃！」

アルフレッド・アーリー

パワー13000+8000↓21000

「ヘリクサー・セレクター」に「フレーム・オブ・ビクトリー」でガード！」

千歌の手札4↓2

灼熱の獅子 ブロンドエイゼル

パワー12000+20000+15000↓47000

「チェック・THE・ドライブトリガー！」

梨子の手札2↓4

《ドライブトリガー》

- ① へ幸運の運び手 エポナ☆
- ② へふろうがる☆

「ええええええ!？」

「だ、ダブルクリティカルトリガー!？」

「効果は全てブラスタター・ブレードに！」

ブラスタター・ブレード

パワー300000+100000+100000↓500000

☆1↓2↓3

「アレンの支援を受けて……ブラスタター・ブレードでヴァンガードに攻撃します！」

ブラスタター・ブレード

パワー500000+80000↓580000

「……ノ、ノーガード……ダメージチェック」

千歌のダメージ2↓5/CB1

《ダメージチェック》

【4点目】〈降魔剣士 ハウガン〉

【5点目】〈だんてがる〉前

【6点目】〈灼熱の獅子 ブロンドエイゼル〉

WINNER：桜内 梨子！

—————

「かはあく！負けたあく！」

「……ふふっ」

梨子は少しの微笑を浮かべると、倒れている千歌の下へと歩いて行く。そして、手を差し伸べてこう言う。

「大丈夫？千歌ちゃん」

「あ、ありがとう、梨子ちゃん」

「よい……しよっ！」

床に倒れている千歌を、梨子は渾身の力で引き上げる。そして千歌の目を見てこう言う。

「私に何か手伝える事があれば……協力するわよ？ファイトも楽しかったし。」

「じゃあさ……」

『ヴァンガード部のメンバーに、加わってくれませんか!?!』

「……分かりました、こんな私で宜しければ」

これで梨子を含めて3人となった。……だが、ここはまだまだスタートラインにしか過ぎなかった。それを知るのは、意外と直ぐに訪れるのであった。

第5話 《赤髪の少女とほんわか少女》

東京から転校して来た……ワインレッドの髪をした少女、梨子に善戦の末、手痛い敗北をした千歌だったが、梨子を仲間に加える事に成功！その後3人は……。

【翌日】

「正式に、ヴァンガード部設立を認めてもらおう！」

「方法はあるの？千歌ちゃん」

「……梨子ちゃん、それに関しては問題無しだよ。曜ちゃん、例の物を！」

千歌に促された曜は、カバンの中から1枚のチラシを取り出した！そこには、千歌と曜に梨子のデフォルメされたイラストが、可愛く描かれていた！

『ヴァンガード部、部員を求む！』……これで如何でしょうか！」

「良いよ良いよ〜！掲示しに行こっ！」

「確かここは……」生徒個人での掲示を行なう場合は、生徒会長の承認を得る事』ってなってるわね」

すらすらと規則を諳んじた梨子に従い、千歌たちは生徒会長室を訪れた。

「すみません！2年A組の高海 千歌です！生徒会長に用があつて来ました！」

『分かりました、お入り下さい』

中から声が聞こえた為、3人はそれに従って中へと入る。するとそこには黒澤 ダイヤ生徒会長が机に向かって座っていた。

「生徒会長、お願いがあつて参りました」

「何ですか?」

「部活勧誘のチラシを掲示したいんです!良いですか?」
「……」

千歌がダイヤに要件を伝える。すると、ダイヤは考える素振りを一瞬だけ見せる。そして千歌たちに向き直って、こう告げる。

「構いませんわ。良いでしょう」

「ありがとうございます!失礼しました!」

「……最後に1つ、宜しいですか?」

「何ですか?」

千歌たちは生徒会長室を後にしようとする。そこをダイヤは制止する。止めたのは、聞きたい事があったからだ。

「この提案を……最初に提案した人は、何方ですか?」

「私です!」

「……悪い事は言いませんわ。諦めて下さい」

「……ど、どうして!?!」

「何れ解りますわ。気を付けて下さいね」

その言葉を受けた後に設立書を受取って、千歌たちは生徒会長室を退室した。そして掲示したは良いものの、ココロのどこかで引っ掛かりがある3人だった。

――
【千歌たちが去った後の生徒会長室】

「……なかなか、面白いわね」

「居たんのです?」

「ダイヤは相変わらずね……この胸と同じように♪」

突然にゆつと現れた1人の少女は、ダイヤの胸を摩りながら、そん

な事を言つてのける。それに気づいたダイヤは顔を紅くしながら……。

「や、喧しいですわ!／＼／＼」

「いやあーん♪ダイヤったら、辛辣ウ〜♪」

「何時戻つてたんですの?……何の連絡や相談も無しに」

「今は言えないわ……あの娘たちにも、知る時が来るわ。その時まで
は言えないわ」

「……私、貴女の考える事が、極々偶に解らなくなりますわ」

そのような会話が生徒会長室で起こっていたのは、千歌たちは知る
由もないのであった。

【廊下】

あの後に掲示されたチラシは、受け取る人は居るもの……入部し
てくれる人は皆無に等しかった。……そんな中。

「……あつ」

「ルビィくちゃん」

「ピギィっ。……は、花丸ちゃん?」

「どうしたんずら?何か見てたずらね」

「うゆ……」

先程までルビィが見ていたのは、千歌たちが掲示したチラシであ
る。その手にはチラシが握られている。

「入りたいずら?」

「う、うん……でも、ルビィ……よ、弱いから……」

「安心するずら、マルも一緒に入部するずら」

「い、良いの……?」

「友達……ずらよ。マルたちは、友達ずら」

花丸の何気ない一言に勇気を貰ったルビイは、入部希望を伝える為……その場を動き始めた。

――――
【中庭】

「これで大丈夫だよね！」

「第1段階成功！」

「ふふっ、そうね。……ところで、何処に行けばいいの？」

『ふえ？』

梨子から発せられた素朴な疑問に、素っ頓狂な声を上げる千歌と曜。具体的な説明を梨子が行う。

「分からない？入部するにしても、それを聞くために何処に行けば良いのか、分からなかったら意味無いわよ」

『あっ』

「わ、忘れてたあ~~~~~！」

そう言っつて曜が叫ぶ。逆に千歌は首を傾げていたのを見て、梨子は溜め息を吐いていた。

――――
『わ、忘れてたあ~~~~~！』

「もしかして……あの人たちずら？」

「行ってみよう！」

そう言っつてルビイと花丸は、千歌たち3人の下へと歩いて行く。そして3人の方を向いてこう言う。

「あ、あのー！」

「なあに？どうかした？」

「マルたち……ヴァンガード部に入りたいです」

「そ、それって……入部希望!？」

「は、はい！く、黒澤 ルビイです！よ、よろしくお願いします！」

「マルは……国木田 花丸すら。……じゃなかった、です。よろしく
お願いします」

ルビイと花丸が千歌たちに向かって自己紹介をする。花丸の自己
紹介を聞いた、3人は少し笑いながらもこう答える。

「花丸ちゃん……だっけ？」

「は、はい」

「無理に変えなくても良いよ？自分の個性は消さない方がイイよ！」

「わ、分かりましたぞら！これからよろしくお願いしますぞら！」

そう言っつてルビイと花丸は設立書に署名をし、放課後に生徒会長室
へ立ち寄る事に決めた。

――――
【生徒会長室】

「生徒会長、部活の設立書です！」

「分かりましたわ。……ん？」

「どうかしたんですか？」

「私の目が悪いのでしょうか……ここに《黒澤 ルビイ》と書かれてあ
るのは、もしいや？」

ダイヤが目を向けると、驚いたかのようにルビイが肩を震わせる。そ
れを見たダイヤは続ける。

「やはり貴女でしたのね？ルビイ」

「お、お姉ちゃん……ル、ルビイね？」

「分かりましたわ。妹のやる事に口を挟む事は出来ません……頑張り
なさい」

「ありがとう、お姉ちゃん！」

ダイヤは部活設立書に目を通す。そして承認の印鑑を押し、千歌たちに告げる。

「これでめでたく承認されましたわ。……部室へとご案内します」
「やった！」

そう言つて、ダイヤは5人を部室へと案内する。その時生徒会長室には、爽やかな風が吹き抜けていた……。

【東京：福原高校 ヴァンガード部部室】

「何時も何時もありがとね、優花ちゃん」

「はい！私、颯樹先輩のお役に立てて、とても光栄です！」

この場では生徒会業務を、颯樹ともう一人の少女……赤髪をポニーテールに纏めたスレンダーな体型をした女の子である、絢辻 優花が進めている。

「それにしても……珍しいですね」

「ん？どういう意味？」

「何だか、颯樹先輩……顔が嬉しそう♪」

「……」

表情の変化を見破られ、黙り込んでしまう颯樹。それを見て優花はしてやったりの顔をしている。その後に颯樹は続ける。

「……昔の事を思い出してただけさ」

「そうですか。……特訓の相手をお願いします！」

「OK！」

「ここにも己の力を高める為に、日々奮闘している者たちがいた

⋮
○

第6話 《墮天使、降臨》

『うわあ〜…』

あの後、ダイヤに連れられて部室へと訪れた5人。その中の状況は惨憺たるモノだった。一瞬目を閉じて、ダイヤは千歌たちに告げる。

「ここが、ヴァンガード部の部室となりますわ。散らかってる所がありますので、片付けてから使ってくださいね」

『は、はい……』

そう告げてダイヤは、生徒会長室へと戻って行く。…その一方で、取り残された5人はと言うと。

「……片付けよっか」

「そ、そうだね」

「マルは積み重なっている本を持っていくすら」

「ル、ルビイは…物の整理をします！」

そう言つてルビイと花丸は動き出す。それを見た3人は箒と雑巾を持って、部室内の清掃を始めた。

【数十分後】

「何とか片付いたね〜…」

「これなら活動できるわね」

「じゃあ、これを部室前に飾って……」と

千歌はそう言つて『ヴァンガード部』と書かれたネームプレートを部室前に掛ける。……今ここに、ヴァンガード部の活動がスタートしたのだった！

「……ところで、気になってたんですけど…この部って主に何をする

ずらか?」

「それはヴァンガード部と言う位だし……ヴァンガードの各種大会に出て、良好な成績を収めることだね」

「あっ! ルビィに……考えがあるんですけど、良いですか?」

「ん?」

そう言つて千歌たち3人は首を傾げる。ルビィの言っている事に納得する事になるのは、次の日になつてからであつた。

—————

【浦の星女学院・通学路】〔翌日〕

次の日、ルビィと花丸は共に通学路を歩いていた。その前方には、黒い髪を頭の上でお団子にしている女の子が歩いて居た。花丸はそれを見るなり、声を掛けた。

「よーしこちゃん」

「善子言うな! ヨハネよ! ……何だ、ずら丸ね?」

「やっぱり、善子ちゃんだつたずらね。学校に来る気になつたずら?」

「え、えつと……?」

善子と呼ばれた少女と花丸の話している事に、若干付いて行けない雰囲気の子が2人に問掛ける。それを見た花丸はルビィに善子の事を紹介する。

「この娘は《津島 善子》ちゃんずら。マルとは幼稚園の頃から一緒に幼馴染みずら」

「まっ、そういう事よ。序に、私の事は《墮天使 ヨハネ》と呼びなさい」

「墮天使……ヨハネ?」

言われている事の意味が分からず、首を傾げるルビィ。それを見た善子は花丸に涙ながらに訴える。

「見事にスベってしまっただじゃない！どうしてくれるのよ、また学校行けなくなるわよー！」

「大丈夫ずらよ。マルも居るし、今度は先輩たちも善子ちゃんの味方ずらよ」

「ずら丸……ありがとう！」

ほんわかムードを二人の間で保っていると、2人の背後からトンデモナイ凄いオーラを纏ったダイヤが現れた。

「あなたが……津島 善子さんですね？」

「は、はい……」

「これまでの欠席の理由、確りと聞かせてもらいますわよ……生徒会長室へと来て下さい」

「わ、分かりました……」

その言葉を聞き、ダイヤは善子を生徒会長室へと連行して行く。その姿を見た誰も『南無三』と思っていたのは、想像に難くないのであった。

【ヴァンガード部室前】〔放課後〕

「だ……大丈夫なのよね!？」

「ま、まあ……何とかなるずら」

放課後になり、善子たち1年生はヴァンガード部の部室前に来た。目的はもちろん、善子の入部の為である。意を決した3人は、部室の中に入る。

「待ってたよー！」

「ごんにちは！」

「あれ？その娘は？……入部希望者？」

梨子が善子の事に気づいたので、ルビィと花丸が善子の説明をする。そして善子は2年生の3人に向かって、自己紹介をする。

「つ、津島 善子……です。よろしくお願いします」

「普段は礼儀正しいんですけど、気を抜くとある事になっちゃうんずら……」

『ある事?』

花丸の言葉を聞いた3人は首を傾げる。すると、花丸は見せ付ける様にお団子の先に黒い羽根を付ける……すると、善子の様子が豹変した!

「フツ、私は墮天使 ヨハネ……天界より追放されし、悲しき天使……貴女たち、ヨハネのリトルデーモンにならない?」

『……』

『《津島 善子》の身体は仮初……我が降臨せし時、全ては闇に墮ちるであろう……』

「こうなってしまうんずらよ……はい」

そう言っただけで花丸は黒い羽根を取った。すると、善子は元の性格へと戻った!

「い、良いんじゃない?」

「え……良いの?」

「うんうん!とっっても可愛いよ!」

上から順に梨子と千歌が感想を述べる。自身の予想に反していたので、善子は素っ頓狂な声を上げる。そして善子は聞く。

「え?……こんな私でいいの?」

「良いんずらよ」

「時々ヘンな儀式するかも」

「それも個性よ」

「リトルデーモンになれって言う……」

「それは……嫌ったら嫌って言うー！」

千歌は善子に向けて、自らの右手を差し出す。そして、善子の目を見ている言う。

「善子ちゃん……私たちと一緒に、ヴァンガードしよ！」

「よろしく、お願いします」

そう言つて善子は千歌の右手を取る。これでヴァンガード部の人数は6人となった！

「……………」

「そう言えば……ルビイちゃん、昨日は何か言つてたね？」

「そうそう……やり方に提案があるって」

「そうでしたー！」

梨子に催促されて、ルビイはホワイトボードの前に立つ。そして内容を発表する。

「善子ちゃんが入部した事によつて、部員は6人です！そこで……ルビイは《総当たり戦》を提案しますー！」

「なるほど、つまりは全員が1回ずつ……誰かと戦うって事ね？」

「そうです！全員と当たる様に組めば、各々の戦術を見極める事ができますー！」

ルビイが発した提案を善子が要約する。それに納得したら5人は、どう組むかの話し合いを始めた。……その結果はこうなった。

「……………」

《総当たり戦》【善子ちゃん歓迎会!!】

〔1 周目〕

① 梨子さん VS 善子ちゃん

② 千歌さん VS 花丸ちゃん

③ 曜さん VS ルビィちゃん

—————

「じゃあ……先ずは私たちからね」

「よ、よろしくお願いします」

『スタンドアップ・THE・ヴァンガード!』

何時もの掛け声と共に、梨子と善子はファーストヴァンガードを表にする！今ここに、ヴァンガード部内での歓迎会が始まった！

第7話 《梨子VS善子》

梨子と善子がファーストヴァンガードを開けた瞬間に、ファイトステージに広がったのは……暗き神殿の入り口であった。上空には満月が浮かび、不気味悪さすら連想される。

「行くわよ！〈ヴァーミリオン・ゲートキーパー〉にライド！」

善子の手札5／ダメージ0

「へぐらいむ〉にライド！」

梨子の手札5／ダメージ0

—————

「善子ちゃんは《ダークイレギュラーズ》……ソウルチャージを基本とした、増強戦術クランだね」

「対して梨子さんは《ロイヤルパラディン》……仲間のユニットを呼んで力を増す、結束の強いクランずらね」

「梨子ちゃんに善子ちゃん……一体、どんな戦いを見せてくれるんだろう？」

曜と花丸が2人の使用クランを分析している中、千歌はただ目の前で起こっている事に釘付けになっていた。

—————

【TURN1】 [PL:善子]

「ヨハネのターン！ドローして〈プリズナー・ビースト〉にライド！」

善子の手札5↓6↓5

—————

プリズナー・ビースト

グレード1／パワー8000／シールド10000／☆1

アイコン:ブースト

—————

「ライドした時に〈ヴァーミリオン・ゲートキーパー〉の効果で1枚ドロー！さらに〈プリズナー・ビースト〉の効果で【ソウルチャージ】(1)

！」

善子の手札5↓6

善子のヴァンガード：ソウル1↓2

《ソウルイン》

① 〈艶笑のサキュバス〉

「ヨハネはこれで終わりよ！」

善子の手札6／ダメージ0

【TURN2】〔PL：梨子〕

「私のターン！ドロローして〈ナイトスクワイヤ アレン〉にライド！
〈ぐらいむ〉の効果で1枚ドロロー！」

梨子の手札5↓6↓5↓6

ナイトスクワイヤ アレン

グレード1／パワー8000／シールド10000／☆1

アイコン：ブースト

「行きます！アレンでヴァンガード（善子ちゃん）にアタック！」

「ノーガード！」

「チェック・THE・ドライブトリガー！」

梨子の手札6↓7

《ドライブチェック》

① 〈閃光の盾 イゾルデ〉引

「ゲット、ドロートリガー！パワーはアレンに与え、カードを1枚ド

ロー！」

梨子の手札7↓8

「ダメージチェック」

善子のダメージ0↓1

《ダメージチェック》

【1点目】〈ヴリコラカス〉

「クツ……我が闇の力が、疼く……！」

「私はこれでターンエンド」

梨子の手札8／ダメージ0

—————

【TURN3】〔PL：善子〕

「ヨハネのターン！ドローして〈ヴェアヴォルフ・ズイーガー〉にライド！」

善子の手札6↓7↓6

—————

ヴェアヴォルフ・ズイーガー

グレード2／パワー9000／シールド5000／☆1

アイコン：インターセプト

—————

「フツ、来れ！闇の軍勢よ！〈ドリーン・ザ・スラスター〉を左後……

〈ブラッドサクリファイス ルスベン〉を左前にコール！」

善子の手札6↓5↓4

—————

ドリーン・ザ・スラスター

グレード1／パワー6000／シールド10000／☆1

アイコン：ブースト

—————

ブラッドサクリファイス ルスベン

グレード2／パワー9000／シールド5000／☆1

アイコン：インターセプト

—————

「ルスベンが登場した時、ダメージゾーンのカード1枚をヴァンガー

ドにソウルイン！その後、デッキトップから1枚をダメージゾーンに
！」

善子のダメージ1↓0 / C B 0 ↓ 1

善子のヴァンガード：ソウル3 ↓ 4

《ソウルイン》

① 〈ヴリコラカス〉

「ソウルに〈ヴリコラカス〉を置いたので、ルスベンの効果で「カウン
ターチャージ」(1)！さらに〈ドリーン・ザ・スラスタ〉の効果で
パワー+5000!」

善子のダメージ0 ↓ 1 / C B 1 ↓ 0

ドリーン・ザ・スラスタ

パワー6000 + 5000 ↓ 11000

「ソウルが増えた……これが《ダークイレギュラーズ》の十八番ね」

「さらに〈プリズナー・ビースト〉を中央後にコール！登場した時、1
枚を「ソウルチャージ」！そして〈ドリーン・ザ・スラスタ〉の効
果でパワー+5000!」

善子の手札4 ↓ 3

善子のヴァンガード：ソウル4 ↓ 5

《ソウルイン》

① 〈悪夢の国のマーチラビット〉引

ドリーン・ザ・スラスタ

パワー11000 + 5000 ↓ 16000

「この時点で〈ヴェアヴォルフ・ズイーガー〉と〈プリズナー・ビース
ト〉の効果発動！ヴァンガードのパワー+5000……〈プリズナー・

ビースト」のパワー+2000!」

ヴェアヴォルフ・ズイーガー

パワー9000+5000↓14000

プリズナー・ビースト

パワー8000+2000↓10000

「行くわよ…」

『(ゴクリ……)』

「進撃開始よ!」へプリズナー・ビースト」の支援を受けてへヴェアヴォルフ・ズイーガー」でヴァンガードに攻撃!攻撃した時に「ソウルチャージ」(2)!」

善子のヴァンガード:ソウル5↓7

《ソウルイン》

① へデーモンイーター」

② へ囚われの墮天使 サラエル」

ドリーン・ザ・スラストー

パワー16000+5000↓21000

ヴェアヴォルフ・ズイーガー

パワー14000+10000↓24000

「一気にパワーが上がった!?…ノーガード」

「チェック・THE・ドライブトリガー!」

善子の手札3↓4

《ドライブチェック》

① へヴェアルクス・ゲフライター」☆

「ダメージチェック!」

梨子のダメージ0↓2

《ダメージチェック》

【1点目】へアルフレッド・アーリー〈

【2点目】へ小さな賢者 マロン〈

「次！へドリーン・ザ・スラストアーの支援を受けて……ルスベンでヴァンガードにアタック！」

ブラッドサクリファイス ルスベン

パワー9000+21000↓30000

「ノーガード……ダメージチェック」

梨子のダメージ2↓3

《ダメージチェック》

【3点目】へういんがる〈

「フツ、ターンエンド！」

善子の手札4／ダメージ1

――――
【TURN4】「PL：梨子」

「私のターン……ドローして……行きます！」

梨子の手札8↓9

「良いわよ……」

「聖なる剣の名の元に、敵を砕くは白き騎士！立ち上がれ……私の分身！ライドへブラスター・ブレード〈!!!」

梨子の手札9↓8

――――

ブラスター・ブレード

グレード2／パワー9000／シールド5000／☆1

アイコン：インターセプト

—————

「(これが…梨子さんのメインユニット……カツコイイじゃない!)」

「行くわよ…善子ちゃん!」

「ってか、ヨハネ!善子言うな〜!」